

会議録 (1)

会議の名称	令和7年度 第3回飯能市総合振興計画審議会
開催日時	令和7年10月16日(木) 開会 午後1時30分 閉会 午後2時50分
開催場所	飯能市役所本庁舎3階 301会議室
議長氏名	熊田 俊郎
出席委員	熊田 俊郎 吉田 行男 中里 忠夫 小谷野 庄司 大河原 章吉 関口 正博 井上 久美子 双木 和宏 浅野 正敏 宮下 清栄 荒井 利夫 齋藤 龍一
欠席委員	大野 康 加藤 巳佐子
説明者の職氏名	企画課主幹 遠藤 延人 企画課主任 馬場 俊一
傍聴者の数	1名
会議次第	別紙のとおり
配布資料	別紙のとおり
事務局職員職氏名	企画総務部長 金子 智彦 企画総務部参事兼企画課長 奥 孝明 企画課主幹 遠藤 延人 企画課主任 馬場 俊一 企画課主事 木寄 彩花

会議録（２）

議事録の概要〈経過〉・決定事項

議事

（１）第６次飯能市総合振興計画基本構想（案）について（公開）

① 第Ⅱ部 第４章 人口の将来展望

② 第Ⅱ部 第５章 土地利用構想

配付資料について、事務局が説明し、審議を行った。

会議録（３）

発言者	発 言 内 容
会長	それでは、議事に入らせていただきます。 その前に前回までの審議の範囲で何か補足をされたいという方はいらっしゃいますか。 （なし） それでは、議事「（１）第６次飯能市総合振興計画基本構想（案）について」を議題といたします。 本日は、第Ⅱ部 基本構想のうち、 第４章 人口の将来展望 第５章 土地利用構想 の範囲に関する事項について、ご意見をいただくことになっております。 それでは、第４章 人口の将来展望につきまして、事務局から説明をお願いします。
企画課主任	（配付資料 第４章 人口の将来展望を説明）
会長	説明は以上です。 ここまでの内容で委員の皆様から何かご意見等はございますか。
委員	やはりかなり厳しい現状であると感じています。附属資料１４ 飯能市人口ビジョンの１４ページ、１５ページを見ますと、正直言いまして、社会増は多少伸びてきていますが、この状況も止まってしまうと、人口を千人を増やすことも、本当に大変だと思います。事務局の説明にもあったように目標人口は諦めて、現状を的確に捉え、低いなら低い方が良いのではないかとということまで書いてしまっているのではないかとというのが感想です。
会長	私も感想を述べさせていただきます。１つは市独自の推計があり、これは市の合計特殊出生率が埼玉県希望出生率まで上がった場合という前提ですが、随分非現実的ではないかと感じました。市の合計特殊出生率が極端に低い現状があり、なぜこんなに低いのかという部分を考えないと、もっと高い数値を想定するには問題があるのかなと思います。そこでなぜ低いのかと個人的にも考えましたが、全然見当

企画課主任

がつきませんでした。合計特殊出生率の出し方自体が年齢ごとの出生率の合計値のため、飯能市の年齢構成の問題が大きく効いていると思われますが、数値だけですと東京の都心部のようなすごく低い数値になってしまっています。これを放置していいという話ではないと思いますので、人口維持水準というのは夢みたいな話ですが、そこまではないにしても、なぜ飯能市の数値が低いのかという分析をした上で、高い水準というのはどうなのかなということを、何らかの形で盛り込むのが良いのではないかという気がしております。

もう1つは、人口ビジョンの方で都市部と山間部に分けて掲載していますが、市民の方々は地区の中で暮らしているわけなので、地区の中でのバランスみたいなことを、計画のどこかで入れておいた方が良いのではないかという気がしております。飯能市全体としてこうあれば良いという話でもなく、そういったバランスというものを考えてほしいという希望がありますので、感想を申し上げておきます。

まず1つ目の合計特殊出生率が飯能市は低いことについて、埼玉県の平均以下ですし、ダイア5市の中でも下から2番目だと思います。そういった意味では相対的にかなり低い状況が見られます。なぜ低いのかという部分については、この人口ビジョンで色々とグラフを使って分析をしてきたところではありますが、実際のところ何が根本的な要因なのかということが掴みきれておりません。例えば人口ビジョンの28ページにある飯能市の就業率が国や県よりも高いことから、働くことに重きを置いている人が多いからこそ、結婚が後回しになっているなどは理由の1つとして挙げられるのではないかと考えております。そうした合計特殊出生率の改善については、補足資料13の前期基本計画の重点施策の中で、合計特殊出生率の向上を数値目標として掲げようと考えております。この点については、全く手を打たないというわけではなく、結婚支援やコウノトリ事業などの出産支援といった部分は現在も行っておりますし、結婚や出産を希望する方がその希望を叶えられるような事業に取り組むことは、今後も行っていきたいと考えております。しかし、基本構想の中でその内容がどの程度まで盛り込めるかというところについては検討させていただければと思います。

2つ目の山間地域とまちなかの人口の推移・推計が大きく異なる中で、地域ごとの違いをどう表現していくかという部分について、現状は人口の将来展望の中にも、特には地区ごとの内容は書いておりません。しかし、(2)人口施策の方向性の②暮らしの質を高めるという点で言いますと、どの地域でも持続可能な地域社会を築くということを謳っていますし、2段落目の「様々な経済社会

	システムを人口動態に適合させ」という部分は各地域においても地域拠点、生活拠点、いわゆる行政サービスを提供する地区行政センターなどを核として、行政サービスを維持するという点でも、人口動態に適合させた行政サービスの在り方やこの次の第5章でも説明させていただくコンパクト・プラス・ネットワークなどの考えのもと、それぞれの地域において、人口が減ったとしても暮らし続けられるような地域を実現していくということは掲げていきたいと思います。読み取りができない部分もあるというところがございいますので、その部分は改善できるように検討していきたいと思います。
会長	他にはございませんか。
委員	やはり強烈なアピールが市として必要ではないかと思います。例えば極端な話ですが、戦時中は産めよ増やせよという国策があり、子どももすごく多かったです。私たちが子どもの頃は子どもが多いことは、まちの賑わいや、活気につながっていました。子どもが少ないというのはとても寂しいなと感じます。市としてこの現状をかなり深刻な問題と捉えていかなければいけないのではないかと資料を見てつくづく思いました。飯能市は子どもを育てやすい、他市と違うような具体的なPRが必要ではないかと思います。
企画課主任	お質しのとおり、子どもの声が聞こえる方が、まちとしてはすごく活気があるなと感じますし、すごく豊かで明るいまちだなという印象を受けるのではないかと思います。そうした中で飯能市でも、子どもが生まれたときに赤ちゃんスマイルクーポンという出産のお祝い金を電子クーポンとしてお渡しする独自の制度がございいます。また、いわゆる子育て支援機関、相談支援機関のようところも職員が非常に丁寧に対応ができていて、素晴らしい支援対応をしてくれているまちだと外部の有識者の方から評価をいただいたということも聞いております。本当に子育てについてはすごく力を入れているまちと自負しておりますので、あとは、それをいかに広報して知ってもらえるかという部分に力を入れる必要があると感じました。今回、前期基本計画で施策24シティセールス・シティプロモーションを掲げましたので、その中でもきちんと盛り込んでいき、具体的な取組が行えるように進めていきながら、子どもの数が少しでも増えるようなまちになっていければ良いと感じました。
会長	他にはございませんか。

委員

事務局から説明があったように、子どもたちや赤ちゃんに対する施策というのはすごく色々な面で一生懸命取り組んでいて、財政が厳しい中、市としても大変な状況にあると思いますが、その中でも子育てに関しては非常に頑張っているかなと思います。高齢者に対する施策も結構充実していると思います。先日、入間市、狭山市の方と話す機会があり、飯能市は子どもに対して本当に頑張っているという声もいただきました。そのため、先ほども意見があったように、もっと飯能市をアピールして、子どもをここで出産するとこんなに良いことがありますよということを広めていかないと、今ある人口の中で子どもを増やそうというわけではなく、呼び込んで、ここで出産してもらうなど、そのようなアピールをしていただきたいと思います。

企画課主任

アピールが不足しているのではという部分を今後の課題として捉えていきたいと思います。財政面では確かに他市と比較しても若干今は厳しいところがあると思います。こどもの部局に聞きますと、人材だったら間違いなく飯能市が一番だが、財政面で具体的に支援ができるかというところ、そこが劣ってしまう部分があるという声があります。そのため、PRとしてどこまで、どのように行うかという部分は課題ではありますが、子育てしやすいまちという表現や、そのようなPRの仕方という部分は考える必要があると思いますので、今後、計画の推進の中でもしっかりと掲げていけるようにしたいと思います。

会長

他にはございませんか。

会長

先ほど言いましたように、出生率の低さというのは何とか対応を考えていかなければいけない重要な問題だと思います。人口学者の話を聞きますと、日本の特徴として、婚外子が非常に少ないと言われています。諸外国などでは結婚しないで生まれる子どもがすごく多いようです。その現状を見ますと、先ほど話が出ましたが、婚活の色々なイベントを行うなど未婚率を下げるような努力をすることは人口学的に非常に理にかなった話なのです。婚外子が生まれにくい特徴を逆に捉えれば、結婚すれば出産する可能性が高いということが言えると思います。それに加えて、ここで出産したらしっかりと育てられるということをかみ合わせるということが、基本的に最低限必要な話なのかなと思います。そのほかにも色々アイデアをお持ちの方もいると思いますが、基本構想としてはこのような形なのかもしれません。さらに色々な場面でご意見があり得ると思いますので、それも含めて飯能がもう少しそのような価値もあるところと注目してもらえたら良いと思います。

企画課主任	本日ご欠席の委員から、人口の将来展望についてのご意見、ご感想をいただいておりますので、この場でお示しさせていただきます。1点目として、人口施策の方向性①、②については、ともに人口減少抑制に寄与すると予測できるが、具体的な実施計画だとか施策内容が示されないと、分かりづらいというご意見をいただいております。しかし、人口減少に対してどのような施策を立てるのが良いのかという部分は非常に難しい問題だと思うというご意見もいただいております。 もう1点、人口の将来展望の中の、②暮らしの質を高める、そして暮らし続けたいと思えるまちにするという部分が非常に妥当な考え方だと思うというご意見をいただいておりますので、ご紹介いたしました。
会長	他にいかがでしょうか。 (なし) 続きまして、第5章 土地利用構想について事務局からご説明ください。
企画課主幹	(配付資料 第5章 土地利用構想を説明)
会長	説明は以上です。 ただいまの内容で委員の皆様から何かご意見等はございますか。
委員	まず、2 区分別の土地利用の方向の(1)市街地ゾーンで「居心地が良く歩きたくなる環境の整備」と書いてありますが、ここに歩きたくなる「歴史文化が薫る」環境の整備という文言にしたいです。それと同じように、3 戦略的な土地利用の方向の(2)戦略的活性化エリアの「地域の活性化や新たな魅力の創出」と書いてある部分に、地域の活性化や「歴史文化を生かした」新たな魅力の創出と入れていただきたいという意見です。 また、2 区分別の土地利用の方向の(4)の森林ゾーンで「公益的機能」とあり、この公益的機能は前段では土砂災害防止や水源涵養、二酸化炭素吸収などが書いてありますが、ここに生物の多様性を高める機能のような内容を加えて入れていただくと、より公益的機能が充実するかなと思いました。
企画課主幹	お預かりして、整理したいと思います。生物の多様性については、森林ゾーンに限らず、丘陵ゾーンにも該当するかと思います。都心に近いながらも、豊かな生活環境を生み出す多様な生態系の保全に努め

	るところを踏まえて整理していきたいと思います。
会長	他にいかがでしょうか。
委員	区分別と戦略的な土地利用の方向がありますが、農業ゾーンと産業誘導エリアがほぼ同じ区分になっていて、今後どちらを主軸にするのかを伺いたいです。今、ちょうど芦荊場や下川崎では遊休農地がとても多く、若手の農家さんも全然いない状態です。私も40代ですが、同世代の人たちは農業には携わっていない状態で、荒れてしまっている遊休農地が多いです。その状況で農業をしていると種が飛んできて、手間がすごい増えてしまうのが現状なんです。そのため、産業誘致など余っている農地は何かしらの利活用をしてもらえると正直助かると思っています。
企画課主幹	農地に関しては図でお示している黄緑色の農業ゾーンで、ご承知のように農業振興地域、精明地区の農地については、農業振興地域の規制が張られている地区でございます。当然、農業振興をするエリアにはなりますが、委員からお話がありましたように、高齢化や人口減少の現状から耕作放棄地が増えているということも認識しております。そのため、農地が適正に利用されることを前提にしながら、一方で農地の集約集積を進めながら産業誘導エリアとして、農地を利活用する、他の産業用地として土地利用を図っていくことも踏まえ、あるいは農地をそのまま農業法人などに利活用していただく可能性も含めてエリアを大きくしている状況があります。土地利用の方向を踏まえながら、今後の利活用策について検討していきたいと考えています。
会長	他にいかがでしょうか。
委員	コンパクト・プラス・ネットワークについて、満足度と重要度のマトリックス図の中で交通は重点改善領域に入っていますが、資料の概念図の市全域の図を見ると、名栗方面もバスでカバーしているとのことですが、カバーエリアというよりも運行数が重要だと思います。これからも残念ですが、人口がもっと減り、高齢者も免許を所持している方が多く、バスを利用する人は減り続けるため、維持というのはすごく難しいと思います。ネットワーク部分を担う手段として、吾野方面では奥武蔵らしくらく交通というのが1つありますが、名栗の方には何か考えているのでしょうか。
企画課主幹	現状としては奥武蔵らしくらく交通のような外出支援サービスについて、名栗地区方面に展開していくという方向性はございませ

	ん。バス路線を維持していくという形で整理しています。
委員	公共交通は皆さんが維持してほしいという希望をお持ちですが、実際に利用するかというと、しない方々がほとんどです。本当に住民の人に真剣に考えてもらう必要があると感じています。そうしなくては、このコンパクト・プラス・ネットワークの考え方が通用しなくなってしまうので、ぜひ住民の皆さんに本当に公共交通が必要なのかということを真剣に考えてほしいなと思います。
会長	他にいかがでしょうか。
会長	私もこれを拝見していて、とても気になったところです。交通ネットワークという表現をしたときに、どうしても公共交通機関だけ考えてしまいますが、既存の公共交通機関がどこでも成り立たなくなっているというのが現状だと思います。特に飯能市は都市部はほとんど問題ないですが、それ以外の地区に関しては、公共交通機関が成立しなくなってきた、いくら補助金を出してもバス路線を維持してもらえない状況になってくるのだと思います。それによって先ほどの奥武蔵らしく交通など色々な形の交通の在り方を検討していくということは当然必要なのかなと感じます。既存のバス路線やそれだけにこだわらないような形でどんなものがあるんだろうと言われると非常に困りますが、その部分をもう少し、検討していくことが今後求められてくるのだと思います。
企画課主任	お質しのとおり、公共交通機関の利用者がこれからも目減りしてしまうということは現実として起こり得ることだと思っております。その中で、例えば福祉分野の考え方として、外出支援の取組というところも、各地域で進められているものがございます。吾野地域では、地域福祉推進組織の「たすけあいあがの」という団体が「らくだ号」というワゴン車を走らせて、一番近くのスーパーマーケットまで安い運賃で送迎してくれるという福祉的な外出支援サービスというものがございます。また、先ほど話に出た名栗方面でも、「なぐり広場」という同じく地域福祉団体が、公民館などの地域活動の場に行くときに送迎サービスを行い、外出する手段として運用されています。それぞれの地域コミュニティの中で自ら課題と認識して、それを改善していくために、自発的なサービスを創出し、進められています。そういった取組に対し、社会福祉協議会や市からも補助をしているという取組もございまして、必ずしも公共交通機関ありきではないということは、現時点でも取組とし

	て進めております。しかし、それをどこまで広げられるかという部分は、それぞれの住民の皆さんの考え方によるところもあると思うので、ここで表現するのは難しいと思っております。
会長	他にいかがでしょうか。
委員	私たちも社会福祉協議会と一緒に頑張って移動販売車を走らせて、そこに食料品を載せて、地区を回っていますが、住民が買いに行かなければ結局終わってしまいます。そのため、ここにこういうものが来ているということや、東吾野ではとてもきめ細やかに回っているので、そういうところをしっかりとアピールして、大勢の方に利用してもらう必要があります。やはりそれぞれの住民の意識が高まらないと、取り組む側のみで話し合ってもどうにもならない部分があると思います。住民に送迎バスを走らせるから乗ってほしいというアピールをする、そういう形にならないと、せっかく一生懸命取り組んでいても終わってしまうと思うので、そのあたりを社会福祉協議会にも頑張っていただきたいと思います。
委員	幹線の鉄道やバス路線、公共交通の停留所、駅まで出てこれないという部分を、奥武蔵らしく交通や、地域福祉推進組織の方々などで地域ごとに活動している送迎サービスをボランティアとして幹線の交通機関の駅やバスの停留所まで送迎するというのも少し始まっています。色々な公共交通機関と共存するような形で地域の方は考えていて、はんのうふくしの森プランという福祉の計画では、各地区での活動計画を住民の皆さんと一緒に考えて、地区ごとの計画ができています。その中には全部ではありませんが、特に山間地域では交通の問題が非常に大きな課題になっているため、自分たちのできる範囲でカバーしていこうという取組が継続しているものと新しく検討していく動きも少し出てきています。しかし共通するのは、既存の公共交通機関を生かした、カバーができるような住民主体の送迎サービスを作っていこうということだと思います。社会福祉協議会としても、その点は吾野や名栗などでは自動車をお貸しして、それを使って走っていただいているなどの取組もありますし、そういった支援を続けていけば良いと思っているところです。
委員	交通ではラストワンマイルという表現を使います。大分先の話かもしれませんが、自動運転などが出てくると、かなりラストの判断もワンマイルより長いかもしれませんが、それで皆さんが公共交通を利用してくれるのかなということを一番心配しています。

委員	大体利用する方が決まっているような状況もあるみたいです。
委員	正直に言ってしまうと、高校生と免許のない女性が今までのニーズでしたが、これから女性の皆さんも免許を持っているようになり、高校生がいない、そうなると思うと誰が利用するのかという部分がすごく心配です。
企画課主任	方向性として次の前期基本計画の中では、市内のバス路線の年間利用者数を維持していくということを数値目標として掲げています。そのため、公共交通をベースとした交通ネットワークを今後考えていく前提になると考えております。しかし新しい考え方として、シェアライドですとか、交通M a a Sというものも、少しずつ実証実験が始まって普及してきているところもあると思いますので、そうしたところについては今後研究していきながら、公共交通機関だけに限らないネットワークの構築という部分について検討していきたいと思っております。
会長	私の田舎も鉄道が廃線になりそうなところがあり、廃線にさせないためにイベントを企画して利用者を集めることがありました。そうすると、バスに乗ろう運動みたいなものもどこかで必要なのかもしれない。もちろん車を持っている人は、その方が便利に決まっていますが、そういう公共交通機関を利用する機会を作って、公共交通機関をそれぞれ維持させるというのは、どこか必要かなって思うことがあります。 他にいかがでしょうか。 (なし) それでは、議事（１）につきましては以上といたします。 以上をもちまして本日の議事は全て終了しました。 議事が終了いたしましたので、傍聴者の皆様方におかれましては、ご退出くださいますようお願いいたします。 (傍聴者退出) それでは議事はすべて終了しましたので、議長の任を降ろさせていただきます。皆様、長時間にわたりご協力ありがとうございました。

議事の内容・概要を記載し、その相違ないことを証するためここに署名します。

令和 年 月 日

議長の署名 _____